

機械工
支店長
木村 札幌

長年培った独自技術が存在感放つ

北海道の課題解決へ提案深化



青友支店長 青山

を背景に存在感を高めている。今年4月には営業所から支店へ昇格し、工場空調からビル空調、農畜産分野まで活用領域を広げている。

業務用・産業用空調システムメーカーの木村工機（社長＝木村晃氏、本社・大阪市中央区上本町西5-3-5）の札幌支店（支店長＝青山友氏、所在地・札幌市東区北24条東16-1-6）は、北海道市場に根差した営業活動を展開している。長年にわたり熱回収技術や外気処理技術の提案を積み重ね、近年は冷房需要や暑熱対策需要の高まり

青山友支店長は支店昇格について「これまで以上に責任感を持って取り組み、お客様の期待に応えていきたい」と語る。営業所時代から積み重ねてきた活動が道内市場で評価されたと受け止める一方、支店としてさらなる成果を求められているとの認識を示す。

今年立ち上がりについて「独自製品の引き合いも強く、良い流れが続いている（同）」と語る。背景には数年前から進められてきた営業体制強化に加え、北海道市場そのもの変化がある。近年は道内でも30度Cを超える日が増加し、従来は暖房中心だった施設でも冷房設備の導入や更新が進む。学校や公共施設、工場、事務所など幅広い分野で暑熱対策への関心が高まり、同支店においても冷房や除湿、換気を含めた空気環境改善に関する相談が増加しているという。

こうした市場環境の変化は追い風となっているが、青山支店長は「私たちが取り組んでいる内容自体は大きく変わっていない」と話す。同社では20年以上前から熱回収外調機をはじめとする高効率な外気処理技術を展開してきた。北海道では寒冷地特有の環境条件から熱回収技術との親和性が高く、札幌支店でも長年にわたり提案を続けてきた経緯がある。

近年は省エネルギー化や脱炭素への関心の高まりを背景に、これまで培ってきた技術や考え方が改めて評価され始めている。以前は性能や考え方に加え、コスト削減や省エネ性を重視する傾向があったが、今は省エネや環境対応の面からも必要性を感じていただけるようになった（同）と話す。

その中で同社が中長期的に訴求を進めるのが「自然派ハイグレード（HG）空調」だ。水やヒートポンプ（HP）、熱回収技術などを活用しながら快適性と省エネ性の両立を図る同社独自の空調思想で、札幌支店でも重点テーマとして展開している。支店内にはショールームを設置し、実際の空調システムを体感できる環境を整備。設計事務所や設備業者などに向けた情報発信を強化している。

北海道では以前から熱回収外調機が広く採用されてきたこともあり、自然派HG空調との親和性は高い。青山支店長は「北海道の設備関係者は新しい技術に対しても、どうすれば活用できるかを真剣に考えてくれる。自然派HG空調も北海道市場に合った空調の考え方として広げていきたい」と意欲を見せる。

足元ではビジネス進出を契機とした千歳周辺の開発や、ホテル・商業施設整備への期待も高まる。従来から強みを持つ産業空調分野に加え、宿泊施設やオフィスビルなど新たな需要も見込まれており、札幌支店では幅広い市場への提案を進める考えだ。



札幌ショールーム

また、新たな取り組みとして農畜産分野にも注力する。酪農や畜産が盛んな北海道では、高温化による牛や作業業者への負担が課題となっている。同支店では展示会や現地ヒアリングを通じてニーズ把握を進めており、牛舎や搾乳施設などへの空調活用について提案を開始している。「北海道には北海道ならではの課題がある。お客様と一緒に考えながら最適な方法をつくり上げていきたい」（同）と話す。長年培った技術と地域に寄り添った課題解決力を強みに、札幌支店は変化する北海道市場への対応を進めている。